

第 21 回国際ガラス会議 (ICG) 参加報告 - 1

(株)ニューガラスフォーラム

鈴木 恵一朗

Report on the International Congress on Glass XXI - 1

Keiichiro Suzuki

New Glass Forum

2007年7月1日から6日まで、フランスのストラスブールにて、第21回国際ガラス会議 (International Congress on Glass) が開催された。ストラスブールは旧市街が世界遺産に登録されている大変美しく、またヨーロッパ議会の都市としても有名な所である。ICGは、そのヨーロッパ議会に程近い会議場において約40カ国より870人が参加して行われた。日本からは約80名程度の方々の参加があり、特に旭硝子と日本電気硝子から各々12-14名程が参加していたことが特筆される。



会場 Palais des Congrès

本ICGでは、ガラスに関する研究のみならず、ガラス産業の現状・方向等、ガラスに関係する非常に広範囲に亘る発表・講演等が行われた。7/2の開会式後に今回初めて行われたラウンドテーブル (パネルディスカッション) では、“Glass products for the future”と題して、Helmut Schaeffer教授の司会の下、パネラーに日本電気硝子(株)の山本茂取締役を含め6人の方が出られ、それぞれの企業等における今後の新商品に関する考え方、取り組みなどが紹介され、大変興味深いものであった。また4つの基調講演が行われ、その内の一つは京都大学平尾一之教授によるナノガラスに関するものであった。



7/2開会式後に行われた Round Table
中央が日本電気硝子(株)取締役の山本茂氏

ICG2007発表件数

Session	口頭		ポスター		合計	
	全体	日本より	全体	日本より	全体	日本より
A Structure	26	2	42	5	68	7
B Vibrational properties	11	0	8	1	19	1
C Computer simulations of glass structure and properties	7	1	10	1	17	2
D Porai Koshits symposium	12	1	0	0	12	1
E Gases in glass melts	20	3	5	1	25	4
F Glass melting and forming modelling	19	1	9	2	28	3
G Glass defects and refractories	4	0	4	0	8	0
H Glass melting and environment	7	1	9	1	16	2
I Glass production	19	2	36	3	55	5
J New optical glasses	27	3	57	6	84	9
K Nanostructured glasses	8	1	25	2	33	3
L Technology of optical glass	13	4	28	5	41	9
M Opto-electronics	9	3	15	4	24	7
N Electrical properties	7	0	24	2	31	2
P Thermodynamics, rheology and glass transition	18	1	15	1	33	2
Q Mechanical properties	6	0	25	3	31	3
R New glasses for thermomechanical applications	7	0	12	3	19	3
S Crack formation growth and characterization	13	2	1	0	14	2
T Nucleation, crystallization	11	3	34	1	45	4
U Waste vitrification	19	0	21	1	40	1
V Quality data improvement , quality control	7	0	4	0	11	0
W Histry, archeology, art and design	11	0	10	0	21	0
X Glass surfaces, coatings and glass-metal interfaces	10	2	37	2	47	4
Y Bioglass	6	1	7	1	13	2
Z Glass water interactions	7	0	9	1	16	1
合計	304	31	447	46	751	77

研究発表については、今回、25分野で合計751件の発表が行われた。この内、304件が口頭（内、招待講演35件）、残りの447件がポスター発表、日本よりの発表は合計で全体の約10%に当たる77件であった。発表の分野別の件数を表に示す。前回2004年の京都でのICGでは522件（日本241件）の発表があったとの記録があり、開催地がヨーロッパの中心であったこともあり、当然と言えるが、日本からの発表が少なく、逆に前回に比べ日本以外の発表が3倍近くもあったことになる。また、ICG (International Commission on Glass) のTC1から21の会合が7/1他、研究発表の時間を縫って持たれた。

ICGへの参加は筆者にとって初めての経験であり、世界のガラスファミリーの規模の大きさ、幅広さ、活発さ、そしてそのホスピタリティに触れることができた。筆者自身もただ聞くだけでなく、平成17、18年の2年間に行ったNEDO委託研究「ガラス構造データベースの構築に関する研究開発」の成果をポスター発

表することができた。「構造」のセッションでの発表となったため、反応は今一つだったが、2日目には近くにあった小テーブルをポスターの前に持って来て、パソコンでのデモも行った。合わせてINTERGLADについてもVer.6のパンフレットを配付しつつ説明することができ、INTERGLAD宣伝の良い機会ともなったと思う。



コーヒープレイクにて

今回、INTERGLADの競合データベースであるSciGlassでは展示ブースを出し、口頭、ポスターを合わせ4件の関連発表を行い、積極的に大学等の研究者に対しデータベースの宣伝をしていたことが印象的であった。また、筆者もその中心人物のMazurin氏に初めて会い、色々情報交換できたことは収穫であった。

この他、現在当フォーラムが東工大、旭硝子などと取り組んでいるガラスの気中溶解技術について、矢野東工大准教授から発表されたが、約150人が参加し盛況であった。

ところで、ストラスブールは7月の初めであったのにも関わらず、大変寒く、連日雨が降ったり止んだりの天気、上着、傘を手放せない

日が続いた。水曜日の午後には近郊のHaut-Koenigsbourg城へのエクスカージョンがあり、山の頂上に聳え立つ中世末期の古城の堅牢な構造と当時の内部での生活を偲ばせる内装・家具等を楽しむことができた。が、その間にも突然冷たい雨が降りかかり、寒さに震えることもあった。そしてやっと天気が良くなったのは最終日の金曜であり、晴れて気温も上がってきた中で閉会式が行われた。閉会式は人もまばらではあったが、次回のICG2010の開催地ブラジルのE.Zanotto教授の挨拶・参加への呼び掛けがあり、6日間に亘ったICG2007の幕が閉じられた。



Haut-Koenigsbourg 城



7/6 閉会式